

平成 25 年度
横須賀美術館 評価報告書
(二次評価まとめ)

平成 26 年（2014 年）6 月
横須賀美術館運営評価委員会

I 美術を通じた交流を促進する

【集客・交流推進】

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

〔広報〕

達成目標	・年間観覧者数104,000人	(24年度)	1次評価	2次評価
		B	B	
小林委員長	B	・入館者の数字的面では致し方ないと思いますが。		
菊池委員	B			
安藤委員	B	達成目標まで今一步であった。		
柏木委員	B	・「山崎省三・村山槐多とその時代」展は目標未達ですが、館の独自企画として学芸的な見地からは開催意義は高いと思われます。入館者数の多寡に関しては、展覧会全体で相対的な判断が必要と考えます。		
黒岩委員	A	・観覧者数の判断基準の10万人を達成した点は大いに評価できる。 ・企画展の見込数は妥当な値なのか？実績数との差(増減)について、時期、会期、満足度で検証する必要がある。		
榊原委員	A	・所蔵作品を企画にしたことで予想以上の動員があったのは良いことだった。 ・美術館の役割として所蔵品以外の作品を企画するのは勿論素晴らしいことだが、予算が少ない地方都市の美術館では美術館所蔵の作品に親しみを持ってもらえる機会を作ることは大切だと思うのでいい機会だった。逆に周知されていない、「山崎省三・村山槐多とその時代」は観覧者数は低くても、美術館としての役割を果たしていると思う。		
庄司委員	B	全国ネットの旅行会社のツアーの方々が多く来て下さる事を期待しております。		

実施目標	・広報、パブリシティ活動を通じて、市内外の広い層に美術館の魅力をアピールする。	(24年度)	1次評価	2次評価
		A	B	
小林委員長	A	・それなりのパブリシティに向けての努力は行われていると思えます。現在の横須賀美術館の現状からみてどうなのだろうか。そうした視点を鑑み、次につなげる意味でAにしました。		
菊池委員	B			
安藤委員	B	SNS等新たな媒体の活用増と広報・パブリシティ活動の強化を願いたい。		
柏木委員	B	・増加傾向を維持しており、相対的に見れば、A評価に近いと考えます。		
黒岩委員	A	・全体的に目標値は未達成であるが、個々に見ると前年度より微増となっている点は評価できる。 ・特に商業撮影使用料の増加と団体集客数の伸びは大いに評価できる。		
榊原委員	B	・テレビ、新聞による情報はやはり強いが、市内に限っては、タウンニュースやはまかぜ新聞などは効果的だと思うので件数が増えているのはいいと思う。 ・タウン紙など無料で掲載して貰えた時、新聞の掲載部分の半券などで、割引をするのはどうだろうか。他の美術館などのチラシのなどの割引もよく使われているように思われるので。		
庄司委員	A			

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

[市民協働]

達成目標		(24年度)	1次評価	2次評価
		S	S	
小林委員長	S			
菊池委員	S			
安藤委員	S	着実に市民参加が増加傾向にある。		
柏木委員	S	・ボランティアの登録者数自体は指標のひとつに過ぎませんが、その増減は、いかがでしょうか？		
黒岩委員	S	・プロジェクトボランティア、サポートボランティア共に登録者数と一般参加者数が大幅に増えた点は大いに評価できる。 ・市民(親子)が参加しやすいイベントを企画するための能力の向上が評価できる。		
榊原委員	A	・美術館としては頑張っているが、市民の交流、活動の拠点となっているかどうか。どうしても敷居が高いと思っている市民が多いようなので、ボランティア活動を通して美術館への理解度をもう少し広げることができるのではないかと。		
庄司委員	S			

実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。 	(24年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
安藤委員	A			
柏木委員	S			
黒岩委員	S	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回のイベントが市民に恒例行事として定着した点が大いに評価できる。 ・プロジェクトボランティア登録者29名、サポートボランティア登録者50名は、ボランティア活動への意識の高さと評価できる。 		
榊原委員	B	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会は作られているが、もともと美術に関心のある人には親しみを感じる美術館であろうと思う。ただ、美術館設立の頃からの拒絶反応を示す人もいるようなので、そういうことが払拭できるように市民ボランティアが一役買うことができればと思う。 ・ボランティア自身は与えられた活動には楽しんでいるものの、積極的に目的を持って、やりがいを持つまでには至っているかどうかはまだ分からないように思う。 		
庄司委員	A			

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

【社会教育】

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

〔展覧会・教育普及〕

達成目標	・企画展の満足度(補正值)81%以上	(24年度)	1次評価	2次評価
		A	C	
小林委員長	B	・評価設定の根拠を改めて検討する必要があるように思えます。		
菊池委員	C			
安藤委員	C	前年の満足度・目標値を下回ってしまっている。		
柏木委員	B	・数値的には、3%強の未達ですが、「より一層の努力を要する」というほどの状況とは思えません。来館者総数の1%程度のアンケートに基づく数値結果ではありますが、出品作品に対する満足度は概ね高い数値を示しており、「利用者の知的欲求」は一定程度満たされていると評価します。		
黒岩委員	B	・6回の企画展の満足度を要素別に見ると作品に対する満足度は高い、他の要素をどう高めるかが今後の課題である。		
榊原委員	B	・予算の低い企画展を満足度81%以上にあるというのはAに値する。 ・よい企画を成立するにはよりより予算が欲しい所だが、その中で健闘している。		
庄司委員	B	これからの企画展を楽しみにしております。		

実施目標			(24年度)	1次評価	2次評価
			A	S	
実施目標					
小林委員長	S				
菊池委員	B	・努力の跡はみられるが、企画展満足度を要素別にみると、作品のみが平均80%を超えているが、観覧料、配置・見易さ、心的充足については平均70%台前半、解説・順路については、平均70%を切っている。運営面による影響が低満足につながっていることを真摯に受け止める必要があるのではないか。			
安藤委員	S	バランスよく企画展が開催され、ジャンル也多岐にわたっていた。			
柏木委員	S	・展覧会の内容もバランスが取れており、関連事業も充実していると思います。			
黒岩委員	A	・年6回の企画展は、多様な視点からバランスよく企画されている点は評価できる。 ・企画展と関連する講演会やワークショップ等の事業が充実している点は評価できる。			
榊原委員	S	・児童生徒造形作品は年々洗練され、表現力が増し色彩もどんどん豊かになってきているように思う。 ・谷内六郎が好き人が多い割に来館者がすくなくなっているような気がするの寂しい。 ・一般人にとって図書室を気軽に利用できているかどうかは？のような気がする。			
庄司委員	S	こちらに書いて良いかわかりませんが、秋に文化会館におきまして市民文化展が行われます。その際入選致しました作品市長賞等は市長室の廊下に展示されますがとても良い作品が有ります。美術館でも展示が出来たら良いのではないかと思います。			

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

〔若年層への教育普及〕

達成目標	(24年度)	1次評価	2次評価
・中学生以下の年間観覧者数20,000人	A	A	
小林委員長	A	・横須賀美術館の置かれている現状等を考え、学校と美術館の関係は今後とも検討を要する課題のように思えます。	
菊池委員	A		
安藤委員	S	過去3年の観覧者数平均・目標値ともに達成できている。	
柏木委員	S	・数値上の達成もさることながら、造形活動支援も鑑賞教育もメニューが豊富で、学校や保育園との連携も高く評価できます。	
黒岩委員	S	・年間観覧者数が目標値を上回ると共に、昨年度の観覧者数を大きく上回った点は、大いに評価できる。 ・児童向けの企画展の実施や小学校美術館鑑賞会の取組など学校との連携が、着実に効果として表れている。	
榊原委員	S	・横須賀市の小学6年生全員が美術館を訪れる機会があることは大変恵まれている。今年で6年目とすれば、最初に美術館を訪れた生徒は大学生や職業人となって地方に散らばっていく時、故郷の美術館がいい思い出となっていくことと思う。ゆっくり前向きに美術教育が進んでいるようで、いい取り組みである。	
庄司委員	A		

実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。 ・小学校鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化します。鑑賞会と連動した教材の開発、出前授業の実施などを教員と協力 	(24年度)	1次評価	2次評価
				A
小林委員長	A			
菊池委員	A			
安藤委員	A			
柏木委員	S			
黒岩委員	S	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒造形作品展、小学校美術館鑑賞会の実施等、学校と美術館の連携が十分図られている点は、大いに評価できる。 ・子どもを対象としたギャラリーツアー、ワークショップ、映画会、イベントの充実が図られている点は、評価できる。 ・学校と連携したプログラムや教材の開発(アートカード)は、鑑賞教育の充実を図る上で、大いに評価できる。 		
榊原委員	S	<ul style="list-style-type: none"> ・年々楽しみになってきている児童生徒造形作品展が市民に浸透していっているように思う。 ・昨年に比べて動員がすくないのは生徒の増減に関係あるのだろうか。全体に学芸員さんの仕事量が多いように思う。これからもどんどん仕事が増えていきそうで、今の人員で大丈夫なのだろうか。 		
庄司委員	A			

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。 〔収集管理〕

		(24年度)	1次評価	2次評価
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。 	C	C	
小林委員長	C			
菊池委員	F	・専門的な適性判断基準を持ち合わせていないため		
安藤委員	C	積極的な収集活動が行えるための財源の確保が課題である。		
柏木委員	C	<ul style="list-style-type: none"> ・所蔵作品管理、作品収集に関する美術館としての取組みは過不足なく、Aと評価できると思います。作品購入費の財源確保については、まずは、美術館の設置者で所蔵品の所有者である横須賀市の政策判断になると思いますので、2次評価はFとすべき側面もあると考えます。 ・美術品の購入が途絶えると、優れた美術品の情報が集まらなくなり、将来的な美術館活動に影響する懸念が強くなります。 ・これらを総合的に評価してCとしました。 		
黒岩委員	B	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫・保管庫の環境調査を適切に行い、作品保護が図られている。 ・寄贈に基づくコレクションの充実が図られている。 ・所蔵作品の活用が図られている。 		
榊原委員	C	・残念ながら予算がつかないということへの評価であろうか。寄贈も受けて、いい作品を所蔵してほしい。		
庄司委員	B	適正な管理の大変な事を知ることができました。		

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

【運営・管理】

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

[メンテナンス・来館者サービス]

		(24年度)	1次評価	2次評価
達成目標	・館内アメニティ満足度91%以上 ・スタッフ対応の満足度80%以上	B	B	
小林委員長	A	・アンケートとは別に私の個人的印象ですが、対応のホスピタリティ、館内の清潔度とも、もっと自信を持って評価を試みたらどうでしょうか。		
菊池委員	B			
安藤委員	B	達成目標まで今一步であった。		
柏木委員	B			
黒岩委員	B	・目標値が高く設定されているが、項目別では休憩場所といった改善出来ない面での数値が低く達成が難しいのではないかと。		
榊原委員	A	・スタッフの対応への不満はそんなに多くはないが、ほんの少しの不満が口伝えに広がるのでは困る。 ・全体的には向上している。		
庄司委員	B	仕事に真面目に対する余り来館者の方に注意の仕方が行き過ぎてしまうスタッフの方がいらしゃるようです。 1つお聞きしたいのですが、展示作品を見ながらメモをとる時にえんぴつが良くてボールペンで注意された方が何名かおりました。何処かに注意書き又は受付等で注意書きを渡すのが良いのではないかと思います。		

実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・受託事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。 	(24年度)	1次評価	2次評価
				B
小林委員長	A			
菊池委員	A			
安藤委員	A	開業からの年月が経過してきていることから、施設の継続的なメンテナンスとそのため の財源の確保を願いたい。		
柏木委員	A			
黒岩委員	A	・付帯施設のレストランの満足度が上がり、利用者が増えている点は、美術館の新たな 魅力として評価できる。		
榊原委員	B	・メンテナンスはいいと思う。館内掃除も行き届いている。 レストランの評判はいいが、もう少し気楽にお弁当を食べられる場所が欲しい。 風の影響も考慮しなければならないが、芝生に椅子、テーブルは無理だろうか。		
庄司委員	B			

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

[バリアフリー]

達成目標		(24年度)	1次評価	2次評価
		C	S	
達成目標	・福祉関連事業への参加者数のべ280人			
小林委員長	A	・福祉に関しては障害を持っている人を対象としたものだけではなく、高齢化している日本の現状の中では、「福祉」そのものを市民的課題と置き換えての検討が求められるのではないのでしょうか。		
菊池委員	S			
安藤委員	S	達成目標に到達している。		
柏木委員	S	・「みんなのアトリエ」については、参加者が急増した際の対策を、この段階で考えておく必要があると思います。		
黒岩委員	S	・目標値を大きく上回っている点は、講演会、ワークショップ、みんなのアトリエ等の事業の充実と共に、大いに評価できる。		
榊原委員	S	・もう少し周知されるといいのだが。		
庄司委員	S			

実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 	(24年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
安藤委員	A			
柏木委員	A			
黒岩委員	S	・リピーターと共に新たな参加者の増加は、広報活動や事業内容の充実により、大いに評価できる。		
榊原委員	A	・頑張っている。ただ、あまり知られていないのではないかと。		
庄司委員	A			

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。 〔経営的視点〕

達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数、公用車走行距離を前年度以下とする。	(24年度)	1次評価	2次評価
		C	B	
小林委員長	A	公用車の問題一つをとりましても、経費削減の対応の姿勢は評価できます。		
菊池委員	B			
安藤委員	B	電気使用量以外の項目に関しては概ね目標を達成できている。		
柏木委員	B	・適切な保存環境を必要とする美術品を収蔵し、来館者を心地よく迎えることが不可欠である施設の特性に鑑み、他律的要因に左右される電力消費量の削減を、一律に達成目標とすることの是非が検討されるべきかと思います。		
黒岩委員	B	・結果的に目標値を達成出来なかったが、項目でみると電気使用量(夜間)以外は達成している点は評価できる。		
榊原委員	B	・頑張っている。		
庄司委員	B			

実施目標		(24年度)	1次評価	2次評価
			B	B
実施目標		<ul style="list-style-type: none"> ・職員全てが費用対効果を常に意識し、経費削減に向けた取り組みを行う。 ・美術館運営に係る経費の収支を改善するため、新たな歳入を見出す。 		
小林委員長	A	・新たな歳入の部分は今後の課題としましても、経費削減での姿勢は高く評価できます。		
菊池委員	B			
安藤委員	B			
柏木委員	A	<ul style="list-style-type: none"> ・館全体で費用対効果を意識することは不可欠ですが、企画展に伴う調査出張費等が徒に削減され、事業が先細りにならないよう、留意してください。 ・決算案をみますと、約3億8千5百万円の歳出の内、約3億1千万円は、人件費や管理費といった館を維持するための義務的経費であり、館の自主事業の収支については、よくマネージできていると思います。 		
黒岩委員	B	・前年度実績以下を目指して、職員がサービスを低下させずに経費削減を図っている点は評価できる。		
榊原委員	B	・空いているスペースとか壁などを貸したりすることはできないのだろうか。		
庄司委員	B	美術館の職員の方々の経費削減に対する努力が良くわかりました。横須賀市役所全体の取り組みも大変な事とおもわれます		